波根（はね）湖（こ）干拓（かんたく）新聞

大田市立第二中学校
1年1組
5番
小野 仁瑚

掛戸松島は7年もかけて ナゼ!?岩山を削ったのか？

私は、六月十四日に総合的な学習の時間に、久手町波根町に行きました。掛戸松島や珪化木の見学をしました。たくさんの魅力や発見がありました。私は掛戸松島がどうやってできたのかという歴史に一番興味を持ちました。この新聞を通してみなさんに大田市久手町、波根町の魅力を知ってもらいたいです。

掛戸松島の歴史

山を人の手で切り開いてできた

私は、掛戸松島の歴史について調べました。掛戸松島は、最初は山がつながっていてひとつだったという歴史があります。その山をノミやカナヅチで削っていました。今の状態に削られるまでに7年かかりました。

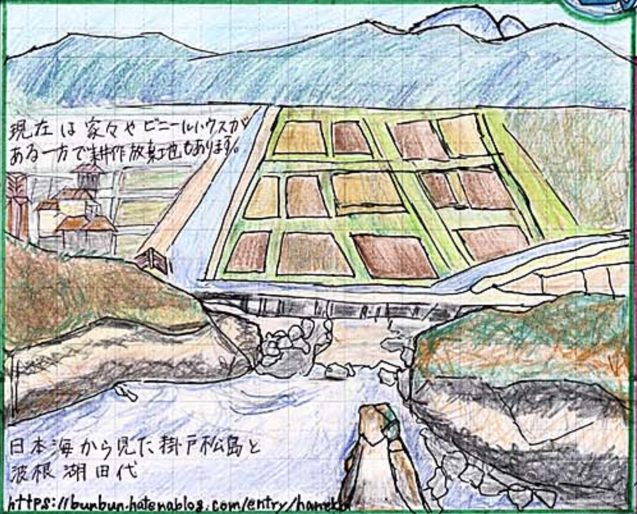
なぜ、こんなに時間をかけてまで岩山を削ったのか?

波根湖の近くでは、昔から水害が多かったです。そのため、多くの人が悩まされていました。そのような水害でたまってしまった水を海に出すために、有馬氏をリーダーにした人たちが山を削る作業を始めました。この場に立つと、美しい松島と共に当時の人々の思いを強く感じて、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

年代	波根湖のできごと	社会のできごと
	～	
646		大化の改新
1026	神谷の刈田神社が大洪水で流れる。	1185 鎌倉幕府の始まり
1298	有馬一政が久手の烏帽子山麓に本拠を構える。 洪水で波根湖周辺の水田に大きな被害がでる。	
1299	有馬氏による掛戸の開削がはじまる。(~1306)	
1300	開削のリーダー有馬一政が病死する。	1338 室町幕府の始まり
1306	掛戸の水路が完成。	

☆有馬一政は神谷の刈田神社の夢のお告げで掛戸開削を決意したという。

1601	大久保石見守長安が初代銀山奉行となる。	1603 江戸幕府の始まり
1708	静間村前原源三郎が波根湖に新田開発を計画	
1732	井戸平左衛門(第19代代官)が★回米を放出	享保の大飢饉
1762	川崎平右衛門定孝が30代代官となる。 定孝が波根湖の干拓事業に着手する。	★回米とは、大阪や江戸へ船で送られる年貢米
1767	定孝の子市之進定盛が第31代代官となる。	天明の大飢饉
1770	波根湖干拓の第1期工事が終わる。(新田13.4ha)	
1943~1951	大規模干拓で水域を完全に干拓した	太平洋戦争終わる
1975~1990	区画整理で現在の状態になった。	大田市制施行


現在は家々やビニールハウスがある一方で耕作放棄地もあります。

日本海から見た掛戸松島と波根湖田代

https://bunbun.hatenablog.com/entry/hanek

掛戸（かけと）の潮止（しおどめ）水門（すいもん）とは!?

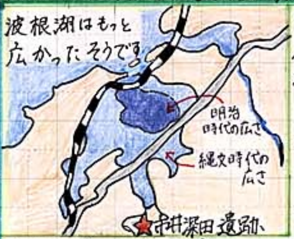
干拓以前の波根湖も淡水と海水の行き来があり、水路が閉ざされ気味になると大雨で湖は増水し、水害をもたらすことがありました。このため、地域の有力者であった有馬氏が排水のために要害山と梶山の間を幅50mにわたって開削し、徳治元年（1306）に完成したのが掛戸の切り割であると伝えられています。この開削により柳瀬の水路は閉ざされ、湖水は掛戸から排水されるようになりました。結果、波根湖岸の水田化を可能とし、特に江戸中期以降、石見銀山領の代官川崎平右衛門が波根湖の新田開発と掛戸水路の改修を実施し、明治以降も引き継がれました。しかし、干ばつ時には湖水面の低下で海水が逆流し、塩害や高潮の被害を受けていたため、この対策として大正七年（1918年）、波根西村によって水門が建設されました。一部取り壊されましたが、この石造りの樋門が、「眼鏡型潮止水門」と呼ばれているものです。堰提は高波の時には波浪が乗り越えて潮止の役目を十分果たさないため、大正十四年に木造の潮止が水門の外側に作られ、干拓地を塩害から守りました。幾世紀にもわたって多くの人々が取り組んできた掛戸の潮止は、波根湖の全面干拓によってその使命を終え、今では締め切り提防と排水機場が地域を水害から守っています。

★市井深田遺跡

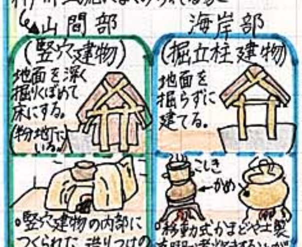
奈良時代、都で聖徳太子が活躍していたころにたてられました。

なぜ、海岸部と山間部、両方の特徴がある家が見つかったのか?

この遺跡は、朝山大田道路を建設する前に、発掘調査をおこなったところ、川沿いのゆるやかな斜面から、建物の、遺跡やたくさんの土器片が見つかりました。資料によると波根湖周辺の山では、たたらが行われていたそうです。たたらは、山の木をたくさん切るので、自然破壊につながっていたといわれています。



神戸川上流によくみられる家


山間部
海岸部
(竪穴建物)
地面を深く掘りくぼめて床にする。
(掘立柱建物)
地面を掘らずに建てる。
こしき
かめ
・竪穴建物の内部につくられた造りつけのかまど
・移動式かまどや土製支脚で煮炊きすることが多い。

編集後記

私は、掛戸松島のお話を現地で聞いて、不思議な形の松島に強く興味をもちました。掛戸松島は、水害による被害を防ぐために七年かけて山を削っていたと知りました。自然の災害から人々の命と暮らしを救うために長い時間をかけて治水工事をしてきた事が分かりました。昭和十八年の干拓では戦争に行った兵隊さんに米を送るために田んぼが必要だったからだそうです。時代と共にその形を変えていった波根湖。これから、その土地がどう変わっていくのか見つめ続けたいです。

波根町の町並みを歩きました。

井戸平左衛門は、1672年に江戸、今の東京で生まれ、60歳になった1731年に大森代官に任命されます。本名は野中正明（のなかまさあきら）。享保の飢饉に他国から米をあつめ、年貢の減免や公金支出をおこないました。また、サツマイモの栽培をすすめ、芋代官と称されました。在任一年半で病に倒れ、享保十八年五月二十七日、六十二歳、備中国笠岡で亡くなりました。

◎井戸平左衛門の言葉◎

「蔵の中にある年貢米をすべて農民たちに分け与えよう。いや、そればかりでは、この飢饉をのりきることはできない。今年の年貢米をいっさい取りたてないようにしなければならない。しかし、一代官の身でこのようなことが許されるのであろうか。」

農民を救いたい気持ちと代官としての立場を考え、農民を救う事を優先しました。

『お江戸のさつまいもレシピ100選』石見銀山資料館編集

私は、さつまいもレシピの中から「大学いも」を作りました。

1. いもを乱切りにして水にさらす。
2. レンジで5分温める。
3. 素揚げする。
4. 砂糖、醤油、みりん、塩を混ぜたタレをからめる。

完成〇〇。

読んでみませんか!

『いも殿さま』土橋章宏著

平左衛門は甘い物好きだったそうです。ぜひ、読んでみてください。

令和4年8月25日発行